



名古屋東海ワイズメンズクラブ

会長主題 「一隅を照らす」

国際会長主題 Faith, Love, Action 「信念、愛、行動」
エドワード・オン (シンガポール)
アジア太平洋地域会長主題 Act now with faith and love! 「信念と愛を持って行動しよう!」
田上 正(熊本むさし)
西日本区理事主題 Let's enjoy the YYY life together with our friends all over the world!! 「世界中の仲間と YYY ライフを楽しみましょう!!」
中井信一 (奈良)
中部部長主題 Y's for Y&Y 「ワイズはYMCAとユースのために」
清水 淳(とやま)
名古屋東海クラブ標語 『限りなき熱情を奉仕に』

今月の聖句

心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。
そうすれば 主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。(箴言 3 章 5 節～6 節)

強調月間 Endowment Fund

◎ 1 月第 1 例会【名古屋 3 クラブ新年合同例会】

日程：1 月 24 日 (土) 18:00～

会場：ルブラ王山

会費：6,500 円

【1 部 式典】

開会宣言・点鐘

ワイズソング・祈禱

会長挨拶・部長挨拶

【2 部 卓話】

「都市デザインの現場から」

講師：鈴木清貴氏

【3 部 会食・親睦】

会食と親睦

閉会宣言・点鐘

出欠連絡を 1 月 10 日 (土) までに
お願いします。

◎ 1 月第 2 例会

日程：1 月 15 日 (木) 19:00～

会場：名古屋 YMCA

◎ 2 月第 1 例会

日程：2 月 12 日 (木) 18:45～

会場：ラ・スース ANN

◎ 2 月第 2 例会

日程：2 月 19 日 (木) 19:00～

会場：名古屋 YMCA



東海ワイズ五つの信条

- 一、自分を愛するように隣人を愛そう
- 二、青少年のために YMCA につくそう
- 三、世界的視野を持って国際親善を図ろう
- 四、義務を果たしてこそ 権利が生じることを悟ろう
- 五、会合には出席第一 社会には奉仕第一を旨としよう

【出席率】月末一在籍者 14 名
(内広義会員 1 名)

出席者 11 名 (Make up 2 名)

出席率 78.6%

【特別ファンデ】 仮集計

クリスマスビンゴ 31,000 円

現在保有額 2,026,058 円

12月第1例会報告

クリスマス祝会

第1部礼拝は浅野君の司会で始まり、讃美歌、松本君による聖書朗読、祈禱に続き日本キリスト教団名古屋教会の田口博之牧師により『最初にして最大の問』と題した説教を頂きました。私たちワイズの交わりの中にこそ神様がいらっしゃるということを忘れないでおきたいと思いました。



第2部は中江君の司会で始まり、ワイズソングを歌い、東海ワイズ5つの信条を唱和した。松本君の食前感謝、橋爪君の乾杯で会食へ。暫し歓談の時間となった。

今回のゲストは、浅野君が毎朝交通整理のボランティアをしているかみさわ保育園の栄養士吉田あきさん、そして6月例会で卓話の講師として来て下さった河合俊光さん、名古屋クラブ会長の加藤明宏さん、松本メネット、谷口担当主事の代役を務めている中井スタッフでした。



充分にお腹を満たした後は、中江君と山村君を中心の恒例のビンゴ大会。会の最後には神谷会長より

昨日刈谷であった強盗犯を住居まで追跡し、証拠映像を撮り逮捕の決定的な証拠を提供したなど「警察24時」に迫るお話があり、続いて次年度も会長続投するとの力強い宣言があり、会長の閉会点鐘で楽しい祝会を終えた。準備をして下さった皆様ありがとうございました。(松本)

【参加者】浅野、神谷、柴田、中江、橋爪、松本、山田、山村、鷺尾(ゲスト) 吉田あきさん、河合俊光さん、加藤明宏さん、中井スタッフ、松本メネット



12月第2例会報告

1. 会員異動の件
八木君からの退会希望を確認し、12月末を持って退会とし異動報告を行う。また太田君を次月(1月)より広義会員とする申請を行うこととする
2. 6日(土)に行われたクリスマスキャロルの報告があり、年間予算に基づき10,000円をクラブより支出したことが浅野会計より報告された。
3. 2月担当の神谷君より手話通訳者を有料(5000円)にて依頼したいとの申し出があり、承認。
4. 次期会長は候補者の事情を考慮し、神谷現会長が続投されることとなった。(但し、2期連続が恒例にならないように注意)
会長選出方法には今後も課題が残る。
5. 根の上キャンプ場の件
橋爪君より最終処理の為に委員会がもたれていることが報告され、そのために東海クラブより50万円を拠出したいとの申し出があった。長年の経緯を踏まえ提案を承認した。

『クラブについて思う事』

山村 喜久

松本さんからブリテンの原稿を依頼されて何を書こうかなと悩みましたが、クラブの事を書いてみました。

2019年に根の上のあかまんまロッジで一泊のクラブ総会（裸で語り合う会）が開かれて以降一泊でのクラブ総会は開催されていません。私が入会した頃は毎年、東海三県の温泉やホテル、公共の宿を利用してクラブ総会が開かれていました。それぞれが現地に集合後、1日目は事業報告、会計報告後、会長引継ぎ式でバッジの交換をしたのち、お待ちかねの夕食。お酒も入って盛り上がります。その後、二次会では飲みながらクラブの有り方などを話し合いました。お酒の飲めない私でも楽しい時間でした。

翌日は礼拝のあと、1年間のプログラムの決定と予算案を承認し閉会。その後は美味しい地元の料理屋で昼食後解散でした。

長く続いたコロナ過で、他のクラブがリモートでの例会に切り替えた中、東海クラブは多少の中止があったものの、対面での例会を続けた結果、出席率は90%以上をキープしてきました。

ただその後、体調不良やその他の都合により退会されたりが続き、また残念ながら逝去されたメンバーがおられたりで、少しずつメンバーが減ってきて、現在は15名となってしまいました。これ以上のメンバーの減少はなんとしても食い止めなければ、ずるずるとあっという間に10名近くまで減っていってしまうでしょう。

次のクラブ総会は是非一泊の会合にしてクラブの将来についてとことん話し合いが出来ればクラブの発展にも繋がるのではと思っています。

岡邦行さんとボウリング

山本直子

埼玉県在住のルポライター岡邦行さんとは、伊勢湾台風から50年という2009年に『伊勢湾台風水害前線の村』を出したのがそもそものご縁。10

年後の2019年に『中村裕 東京パラリンピックをつくった男』、2021年に『東京オリンピックへの鎮魂歌』と、オリンピック関連本を2冊続けて刊行した。

岡さんが、長い間スポーツや芸能関連をテーマにして原稿を書いてきたことは聞いていた。しかし、ボウリング専門誌でライター生活をスタートさせたことは、このたび刊行した『ザ・ボウリング』で初めて知った。

日本でボウリングが爆発的な人気を見せたのは、一九七〇年代はじめのこと。私にも記憶がある。中学生のころに、家族4人で早朝ボウルに行ったことがある。テレビでもボウリング番組がいくつもあった。「サインはV」の後番組だった「美しきチャレンジャー」は、弟とふたりで毎週観ていた。

そのころ、岡さんはボウリング専門誌を出している出版社に就職して、記者生活をスタートさせていた。それから間もなく意気投合したのが、1971年に8期生プロとしてデビューした大塚秀夫プロ。この大塚秀夫プロが、『ザ・ボウリング』の産みの親ともいえる。



【現役時代の大塚秀夫プロ】

1972年、全国に最大3697あったボウリング場は、73年秋のオイルショックを経て1975年には1289と激減し、340人ほどいた男子プロボウラーの3人に1人はライセンスを返上したといわれている。当時岡さんが嘱託記者として原稿を書いて

いたボウリング専門の週刊誌は月刊誌となり、岡さんはボウリング以外のスポーツや芸能も取材するフリーランスのルポライターとなった。

そのころ、大塚プロはボウリング場に寝泊まりしながら、ボウリングの再建を担っていた。そして、岡さんの心に刺さった親友大塚プロの言葉―。

「逃げ場があつていいね、岡ちゃんは。俺にはボウリングしかない。ボウリングと生きる」

フリーランスのルポライターとなった岡さんは、1990年代にも集中してボウリングの取材をしている。最年少の20歳で女子プロ1期生としてデビューした並木恵美子プロは、大塚プロが支配人を務める東京・杉並区のボウリング場で「ボウリング教室」を開いていた。抽選で選ばれた20代から70代までの男女50名を相手に、終始笑顔でレッスンを進める並木プロ。身障者施設にボウリングのピンやボールをプレゼントしたり、小・中学生を集めてボウリング教室を開いたりして、ボウリングの普及活動に打ち込む大塚プロの姿勢に大いに共感してのことだった。

岡さんと大塚プロの交流はその後も続いていた。2021年3月、『東京オリンピックへの鎮魂歌』を手渡したときの大塚プロの言葉―。

「じゃあ、次はボウリングの番だよ。昔のように矢島さんに会えば、すべてが始まるんじゃないの……」

この言葉に従って、2021年6月中旬、矢島純一プロを訪ねて新たなボウリングの取材が始まった。

2021年12月27日、岡さんは大塚プロと多くのボウラーをサポートする知人を交え3人で、杯を重ねながらボウリング談義。このころ大塚プロは連日、知人やボウリング関係者と会って最期の別れをしていた。

2022年2月4日午後九時過ぎ、病床の大塚プロに電話を入れたときの言葉―。

「岡ちゃん、ボウリングを見捨てないでよ。取材を続けてくれ……」

2022年2月6日、大塚秀夫プロは帰らぬ人となった。享年76。

2025年10月、『ザ・ボウリング』が生まれた。



2025年10月刊行 岡 邦行 著
『ザ・ボウリング』

クリスマスキャロル 2025

12月6日(土) 14:30～15:10名古屋駅前にて86名のサンタクロースがクリスマスソングを奏でました。昨年まで使っていたタワーズガーデンは宝くじ売り場になり、今年はタワーズテラスにての演奏でした。



第3例会(忘年会)12月28日(日)繋盛家にて

